

いちごの大規模安定生産技術の開発 公開シンポジウム

1. 趣旨

日本国内のイチゴ生産に携わる農家戸数は大幅な減少傾向にあり、2010 年には 32,329 戸あった農家が 2020 年には 16,260 戸と、10 年で約半分に減少しました。一方、イチゴの作付面積は約 10%の減少にとどまり、出荷量はほとんど減少していません。これは、1 戸当たりの栽培面積が増加し、単位面積当たりの生産量が向上していることを意味しています。このような傾向は今後も継続すると見込まれ、それを支える技術開発がますます重要になっています。イチゴ生産に要する労働時間は 10a あたり 2,000 時間と多く、特に収穫・出荷と育苗にかかる時間が多いことから、単位面積当たりの収穫量の向上に加え、作業効率を高める技術が求められています。

今回の公開シンポジウムでは、これらに貢献できる新しい研究成果や技術について紹介いたします。

2. 主催

農研機構 野菜花き研究部門

3. 開催日時

令和 8 年 1 月 28 日（水）10 時 00 分～16 時 40 分（17 時 00 分～19 時 00 分：情報交換会）
（9 時 30 分 受付開始）

4. 開催場所

TKP ガーデンシティ PREMIUM 東京駅日本橋 ホール 6 C

（住所：東京都中央区日本橋 3-11-1 HSBC ビルディング 6 階、電話番号：03-5299-9007）

<https://www.kashikaigishitsu.net/facilitys/gcp-tokyo-nihombashi/access/>

※対面のみ（オンライン開催は致しません）

5. 内容（変更する場合があります）

10:00-10:05 開会・あいさつ

10:05-10:40 NARO 生育・収量予測ツールを用いたイチゴの収量シミュレーション

農研機構 野菜花き研究部門 杉山 智美

10:40-11:15 圃場選別に適したウェアラブル選果デバイス

芝浦工業大学 重宗 宏毅

11:15-11:50 電照利用とクラウン冷却による夏秋イチゴの増収

農研機構 東北農業研究センター 濱野 恵

11:50-13:00 休 憩

13:00-13:35 飽差制御による冬春いちごの増収

農研機構 西日本農業研究センター 山中 良祐

13:35-14:10 CO2 局所施用による冬春いちごの増収

農研機構 九州沖縄農業研究センター 日高 功太

14:10-14:45 高収益イチゴ作経営の経営実態

農研機構 農業経営戦略部、田口 光弘

14:45-15:00 休 憩

15:00-15:35 青森県における夏秋イチゴ「夏のしずく」の栽培実証

青森県産業技術センター農林総合研究所 伊藤 篤史

15:35-16:10 「恋みのり」における心止まり対策技術による増収

長崎県農林技術開発センター 堀田 修平

16:10-16:40 総合討論

コンビーナー 農研機構 野菜花き研究部門 磯崎 真英

16:40 閉会

6. 参集範囲

施設園芸生産者、関連事業者、行政機関、研究機関等 定員 100 名

7. 申し込み方法

下記の URL から参加申込みフォームへ進み、各項目に必要な事項をご記入ください。

【参加申込フォーム】 <https://forms.office.com/r/6v83gpYiaB>



締切：令和 8 年 1 月 16 日(金曜日)17 時

申し込み先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

8. 事務局および連絡先

農研機構 野菜花き研究部門 施設生産システム研究領域 小田 篤

電話：029-838-8681

E-mail：ichigoyushutsusympo(at)ml.affrc.go.jp

※メール送信の際は(at)を@に置き換えてください。

9. その他

- ・本シンポジウムの録画・録音・撮影はご遠慮ください。
- ・シンポジウム終了後に情報交換会を開催します。参加をご希望の方はチラシをご参照の上、お申込みください。
- ・シンポジウム翌日の 1 月 29 日（木）10 時 00 分から、つくば植物工場見学を行いますので、ご希望の方は事務局までお問い合わせください。